

第2回豊浦町総合戦略推進会議議事録

日時：平成29年5月16日(火)17:00～19:00

場所：豊浦町役場3階第1会議室

出席者：

【委員等】平池委員、大西委員、谷本委員、片桐委員、山本委員、伊東委員、小西委員、
山田委員、工藤委員、奇本委員、清水胆振総合振興局地域創生部長（オブザーバー）

【豊浦町】村井町長、小川副町長、藤原地方創生推進室長、清水地方創生推進係長、
相畑事務補

【藤原地方創生推進室長】

ただいまより、第2回豊浦町総合戦略推進会議を開会します。

平成27年10月に策定された総合戦略について、昨年7月に第1回目の本会議を開催し、推進状況を報告するとともに、委員の皆さまと意見交換を実施したところであります。

前回から概ね1年経過しておりますことから、第2回目となる本日、再び、皆様に推進状況を報告し、様々な角度からのご意見等をいただければと思っております。

それでは、はじめに村井町長よりご挨拶申し上げます。

【村井町長】

皆さん、こんにちは。何かとお忙しいところ、また、夕べの一時、ご家族共々、お過ごしいただく時間帯にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

人口減少問題につきましては、最新の国勢調査結果や将来推計を見ます限り、その流れを食い止めることは非常に困難を極めているところでございます。日本全国の地方自治体は、このような状況を何とか打開しようと、そして未来につなげようと、知恵を絞りながら、必死に取り組んでいる現状でもあります。

私たちの豊浦町もまったく同じような状況であります。

皆さんに出していただいた豊浦の強み、魅力とも言いますか、これを最大限活かすとともに、弱みを克服、また改善し、夢と希望の持てる未来を切り開いていかなければならない、そういうふうにも思っております。

平成27年10月に策定した豊浦町総合戦略は、そうした考え方を実現するためのものでもございます。

私は、平成28年度を「豊浦町の新時代を拓く元年」と位置付けまして、「一步の後退も許されない」、そのような覚悟をもって全力で取り組んでまいったところであります。

また、国では、地方創生において、意欲のある自治体への支援として、交付金制度を設けておりまして、豊浦町においても、この交付金を活用することで、町の財政支出を抑えつつ、総合戦略の推進を図ってきたところでもございます。

加えまして、この総合戦略を推進するための組織として「地方創生推進室」を平成28年度に新設しまして、さらに、今年度は総合戦略の柱となっております農政、また観光部署の人員

を補強しまして、一体的となる、また横断的な推進体制を強化し、着実な総合戦略の推進を図っております。

さて、本会議は、PDCAサイクルにより、推進状況をチェックし、今後の効果的な推進につなげていくことから、委員の皆様から、自由闊達なご議論をいただくことを期待しております。

「子どもたちや若者が夢や希望を持ち続け、町民の皆さまが元気で明るく、また安心して暮らせるまちづくり」、これが地方創生の最終目的であり、私自身の願いでもございます。今後とも、皆様方のご理解・ご協力をお願い申し上げ、開催にあたってのご挨拶といたします。

本日は誠にご苦勞さまでございます。

【藤原地方創生推進室長】

議事に移る前に、何点かお知らせさせていただきます。

まず、委員交代のお知らせでございます。この度、異動等で2名の方が交代されております。

まず、1人目でございますが、これまで北海道銀行伊達支店支店長の立場でご参画いただいております腰原委員ですが、人事異動に伴い、ご異動となりまして、後任の山本教生支店長に委員就任をお願いしたところ、快くお引き受けいただきました。よろしく申し上げます。

山本委員、よろしければ、一言お願いしてもよろしいでしょうか。

【山本委員】

ご紹介いただきました道銀の山本でございます。

4月にこちらにまいりまして、1ヵ月ちょっと経過したところであり、まだまだわからないこともあるところですが、今日は私にとって初めての会議出席ということになりますので、しっかりと勉強して帰りたいと思っております。

今後もしっかりと活動してまいりますので、どうぞよろしく申し上げます。

【藤原地方創生推進室長】

ありがとうございます。

次に、2人目ですが、これまで豊浦町子ども・子育て支援会議委員の立場でご参画いただいていた大久保委員ですが、子ども・子育て支援会議委員を辞任されたことから、本会議の委員も辞任という形となりました。

後任には、大久保委員の後任として子ども・子育て支援会議委員となりました工藤里美様に、当該会議への委員就任をお願いしたところ、快くお引き受けいただきました。よろしく申し上げます。

工藤委員、よろしければ、一言お願いしてもよろしいでしょうか。

【工藤委員】

工藤里美と申します。私も初めての参加ですので、勉強しながらいろいろとお話を伺いたいと思います。よろしく申し上げます。

【藤原地方創生推進室長】

ありがとうございます。

最後に、これまで総合戦略の策定等に関し、胆振総合振興局からオブザーバーとしてご参加いただき、様々なアドバイスをしていただきました高見地域創生部長が人事異動に伴い、ご異動となりまして、本日は、後任の清水章弘地域創生部長にご参加いただいております。よろしく申し上げます。

清水部長、よろしければ、一言お願いしてもよろしいでしょうか。

【清水胆振総合振興局地域創生部長】

ただ今、ご紹介に預かりました胆振総合振興局地域創生部長の清水でございます。今、ご紹介いただきましたとおりですね、4月に人事異動でやってまいりました。過去に胆振総合振興局で勤務した経験がありまして、8年ぶりに胆振総合振興局で勤務することになりました。愛着ある胆振でまた勤務できるということで、頑張ったいと考えております。

本日は、いろいろ皆様のご意見をお伺いいたしまして、ぜひ持ち帰って業務の参考にしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

【藤原地方創生推進室長】

ありがとうございます。

次に、本日の欠席委員についてお知らせします。

いぶり噴火湾漁業協同組合豊浦女性部長の吉川委員と公募委員の鶴野委員については、本日、都合によりご欠席となっておりますので、お知らせします。

本日の配布資料の確認を行い、情報公開についての説明をさせていただきます。

配布資料についてですが、上から順に、議事次第、出席者名簿、座席表、委員名簿、資料1、資料2、資料3、補足資料、参考資料を配布しております。

不足などございましたら、お申し付けください。

情報公開についてでございますが、本会議の開催状況、発言内容等につきましては、広報とよらやホームページ等で公開させていただきたいと思っております。

また、公表に際しまして、顔写真等が掲載されることがございますので、ご理解・ご協力をお願いしたいと思います。

それでは、ここから議事に移りたいと思います。

進行につきましては、谷本座長をお願いしたいと思います。

よろしく申し上げます。

【谷本座長】

お久しぶりでございます。

座長を仰せつかっております東海大学の谷本と申します。よろしく申し上げます。

それでは早速議事に入らせていただきますけれども、1つ目の議事ではありますが、「総合戦略の推進状況」についてということで、事務局から申し上げます。

【清水地方創生推進係長】

地方創生推進室地方創生推進係長の清水です。

私の方から、資料1から資料3まで一括で説明させていただきます。

まず、資料1についてですが、この資料は、総合戦略に掲げられている数値目標の進捗状況を示したものです。

おもて面は4つの基本目標の数値目標を、裏面は4つの基本目標を実現するための各種取組の数値目標を示しております。

数値目標は、進捗状況を把握するのにわかりやすいものであることから、今回、お示しさせていただいております。

おもて面の基本目標ですが、現状、「観光入込客数」が達成されている状況です。

「一次産業関連の新規就労者数」及び「定住促進事業による転入者数」については、2年目の結果としては、順調に推移しているところであります。

また、「エネルギー関連の新規就農者数」については、現状、ゼロ人となっておりますが、こちらの方が、現在、エネルギー関連事業が動き始めている状況であることから、今後の雇用が見込まれております。

裏面ですが、13の取組について、現状、達成されている状況であり、2年目の結果として、約半分の取組が目標を達成している状況から、概ね、順調に推移していると考えております。

なお、詳細は、次に説明する資料2に記載がありますので、ご覧ください。

それでは、資料2についてです。

資料2は第1回の会議で使用した資料を平成29年3月31日現在で内容更新したものとなります。

先ほど説明しました数値目標とその要因分析、また、これまでの取組、課題、今後の取組について、整理した資料となります。

すべての取組を説明すると時間もかかることから、抜粋して説明させていただきます。

まず、1ページ目の「ベリータウン構想の推進による地域ブランド強化」、3ページ目の「新規就農者招致育成による農業振興」、6ページ目の「地域・民間を主体とした、新たな地域事業の実施を想定した自立的な産業連携組織の形成事業」については、国の交付金を活用して進めている事業であることから、資料3の方で説明させていただきます。

戻りまして、5ページ目の「婚活交流事業」についてですが、産業後継者対策として、産業後継者の結婚2組を数値目標に掲げており、平成27年度、平成28年度と婚活イベントを実施しました。

どちらも、それぞれ5組のカップルが成立しておりますが、現状、結婚に至っていない状況であります。

なぜ、結婚に至らないのかについては、当事者間のことであり、極めてプライベートなことから、要因分析というものはなかなか難しいところですが、いずれにしても、カップルの成立率は高いことから、こうしたイベントを引き続き開催し、出会いの場を創出することが今後も重要と考えております。

なお、昨年度は、女性参加者が少なかったことや独身男性へのアンケート調査結果、7月が

最も参加しやすい時期ということが判明したことから、今年度は7月に開催することとし、女性が参加しやすい札幌で開催することしております。

次に、7ページの「水産資源安定化・増大対策」についてですが、漁獲量10,174tの維持を数値目標に掲げておりますが、昨年度のホタテの大量へい死の影響により、目標値を大幅に下回る結果となっております。

ホタテのへい死については、はっきりとした要因がわかっておりませんが、昨年8月の台風や、海水温上昇が影響の一因と考えられております。

また、ホタテ以外のサケなどについても、全道的な不漁であり、こちらも影響があったものと考えております。

対応としては、引き続き、種苗放流の実施とともに、ホタテのへい死対策としての調査研究、また、ホタテが不漁であった場合にも対応できるよう、ホタテ以外の魚種の養殖方法の確立など、専門機関と連携しながら、取り組んでいくこととしております。

次に、8ページの「水産物の販路拡大・漁業経営安定化」についてですが、数値目標として町内外での販売実績数、年4回を掲げており、現状値は、10回であり、達成している状況にあります。

ただし、目標は達成しておりますが、依然として町内で豊浦水産物を購入できる機会は少ない状況にあります。

実際に、昨年度、私も販売のお手伝いに行きましたが、やはり人気がありまして、町民の方の購入希望というのを感じました。

また、夏休み時期には、町外の方が多数いる海浜公園キャンプ場で販売しましたが、こちらも人気でした。

ただ、豊浦水産物として、何があるのかといった知名度は低く感じました。

このことから、購入機会の確保に向け、回数を増やすこと、また知名度向上に向け、今年度から新たにホタテオーナー制度を実証実験として開始しており、話題性の観点からのPRについて、メディアを活用しながら進めていくこととしております。

次、少し飛ばしまして、13ページの「起業化促進事業」についてですが、数値目標として、新規起業数を5年で10件と掲げており、現状、5件の起業化が実現しており、内容としては、カフェやお菓子の製造、活魚の販売などの起業となっております。

また、現状値としては順調に推移している状況であります。

民間の方による起業は、町にとっては経済的にも、また、雇用を生み出すという点においても、重要なことでもあります。

また、お店が増えることにより町民の生活向上にもなることから、要因分析にもありますが、引き続き、丁寧な説明を行いながら、1件でも多くの方が起業できるよう取組を進めていくこととしております。

なお、起業した方への追跡調査として、これまでは、経営が成立しているかという点についての確認は可能な状況でしたが、どの程度、雇用の増進が図られているについては、わからない状況であったことから、追跡調査において、起業による雇用面の効果もしっかり把握していくこととしております。

次に15ページの「学校給食費負担軽減給付事業」についてですが、目標としては、学校給食費負担軽減給付の対象者全員への支援の実施を掲げており、こちらについては、今年度から実施することとなり、目標どおり、対象者全員への支援を達成することができることとなっております。

今後については、子ども子育て支援会議などの関係機関と連携しながら、適切な負担割合がどの程度なのかについて、検討を行っていくこととしております。

次に17ページの「学力向上の推進」についてですが、数値目標としては学習支援員数3名以上を掲げており、現状、3名となっていることから、目標は達成されている状況です。

また、本来の目的である子どもたちの学力についてですが、「平成28年度全国学力・学習状況調査」において、小中学校ともに全道平均の成績を残すことができている状況であります。

今後については、学習支援員による習熟度別少人数指導の充実や、子どもたちの学習意欲を高めることで、家庭での学習習慣にもつなげ、学力の向上を目指していくこととしており、更なる学習支援員の増員を目指しております。

しかしながら、人材確保が困難な状況が続いていることから、胆振教育局などの協力を得ながら、人材確保を行っていくこととしております。

次に19ページの「移住体験事業」についてですが、数値目標として移住体験住宅の利用者数を5年で50件と掲げています。

現状値は19件となっておりますので、順調に推移している状況である。

移住者の増加は、豊浦町の人口減少抑制に寄与するものであり、重要なものであります。このことから、移住体験を通じて、豊浦町という町を知ってもらい、1人でも多くの方が、豊浦町へ移住していただけるよう、取組を進めているところであります。

実際、移住体験住宅の利用者は、道外の方がメインとなっており、自然豊かな町内の散策や、パークゴルフ場やおさいを利用するなど、豊浦町を体験していただいているところであります。

一方で、移住体験住宅は礼文華地区に2戸設置しているものの、利用者の声としては、実際に移住する場合は、市街地へ移住するという方が多い状況であり、「移住体験」という意味では、市街地で移住体験できるようにした方がより効果的であるため、今年度からは礼文華地区の移住体験住宅を廃止し、新たに市街地に移住体験住宅を1戸整備しております。

今後については、新たな移住体験住宅を活用し、より多くの方に豊浦町への移住を検討していただくとともに、これまで冬期間は閉鎖していた移住体験住宅を通年オープンとすることで、冬の豊浦も経験できるようにし、しっかり豊浦町に定住していただけるよう、取組を進めてまいります。

次に20ページの「定住促進事業」及び21ページの「空き家バンク」についてです。

これらは、住宅に関する事項であることから、合わせて説明させていただきます。

そもそも、豊浦町は住宅事情が必ずしも良好という状況ではなく、町内外含め、町内で住宅を探している方が多数おります。これは先ほどの「移住体験住宅」とも関連する部分があり、実際に移住したい方がまず住宅探しで苦勞するという状況があります。

そこで、20ページの「定住促進事業」では住宅購入者への奨励金の交付を実施しており、

これまでに8戸に対し、交付しております。目標値としては、5年で25戸であることから、概ね順調に推移している状況であります。

また、21ページの「空き家バンク」は、空き家・土地の所有者で売りたい・貸したい方と買いたい・借りたい方をマッチングする制度であり、これまでに5件の物件で契約成立しております。目標値としては、5年で10件であることから、こちらも順調に推移しております。

今後については、定住促進事業については、町外の方の利用が8戸中3戸であることから、例えば、豊浦町の子育て環境の良さなどと合わせて、町外への情報発信力を強めていくことが重要と考えております。

また、空き家バンクについては、買いたい・借りたいという方が多いため、現状、登録された住宅はすべて契約に結び付いており、土地のみが残っている状況となっております。町内には利用できる空き家もあることから、所有者の方のご意向を踏まえながら、登録できる物件を増やしていくことが重要と考えております。

次に、22ページの「地元商品（食品）の購買機会の拡大」についてですが、先ほどの8ページとも少し重複する部分となりますが、8ページは豊浦水産物の知名度向上・販路拡大を目的としておりますが、こちらは、地元での買い物環境の改善を目的として、町内での購買機会の拡大の取組を進めているものです。

数値目標としては、購買機会の拡大の取組実証の回数、年3回を掲げており、現状値は平成28年度に12回実施しており、目標は達成されている状況です。

しかしながら、記載にもあるとおり、町内唯一の総合スーパーであるAコープ豊浦店の閉店により、早急な対策が求められているところであり、新聞報道でもございましたが、買い物バス運行実証実験を実施することとしております。

Aコープの件も含め、買い物環境は生活する上で大変重要なことであり、今後についても、買い物環境の向上をめざし、取組を進めていくこととしております。

次に、24ページの「自主防災組織の結成及び避難訓練」についてですが、数値目標として自主防災組織の結成数を5年で10自治会以上と掲げており、現状、2自治会となっております、遅れが見られる状況です。

要因としては、津波の影響がある礼文華地区及び大岸地区の整備を優先したためであります。

今後については、自主防災組織の重要性を踏まえ、積極的に自治会に結成に向け働きかけを行うとともに、すでに結成意向のある自治会を支援し、目標値達成に向け、取組を進めてまいります。

次に、25ページの「特産品など地元産品を活用した地域振興」についてですが、数値目標として食の開発数を5年で3品以上、また、イベントやメディアを活用したPRを年5回以上と掲げており、現状、食の開発数は3品、イベントやメディアを活用したPRは平成28年度に8回となっております、目標を達成している状況であります。

食の開発については、町内の各企業に対し、担当課が個別ヒアリングを行ったところ、具体的な相談につながっており、相談内容に応じ、各専門のアドバイザーとのマッチングを実施し、イチゴやホタテなど3つの新商品開発につながっております。

今後としては、特産品である SPF 豚を活用した食の開発がない状況であることから、引き続き、町内各企業と連携し、さらなる食の開発を行ってまいります。

また、イベントやメディアを活用した PR については、引き続き、町外で開催されるイベント等への積極的な参加とともに、町内においても、道の駅やしおさいなどで、豊浦町の地場産品の PR 等していくなど、取組を進めてまいります。

次に、27 ページの他市町村との連携による観光客の誘致についてですが、数値目標として観光客入込数の平成 26 年度より 10% 増を掲げており、現状、12.9% の増であり、目標を達成している状況であります。

前回数値が 1.3% の増であり、大幅に数値が伸びておりますが、その要因としては、しおさいのリニューアルオープンにより利用者が増加していることが挙げられます。特に、宿泊については、稼働率が高い状況で推移していると聞いております。

また、具体的な数値はないものの、道の駅へのレンタカーでの来訪者数が増加傾向にあるとのことで、道外からの来町者数も増加していることが伺え、要因の一つとなっていると考えられます。

他市町村との連携としては、北海道登別洞爺広域観光圏協議会の構成員として中国の旅行会社に対し観光客誘致の取組の実施や、洞爺湖有珠山ジオパークの構成員として道外での観光客誘致に取り組んでおります。

今後としても、引き続き、他市町村と連携しながら、北海道新幹線札幌延伸などを見据え、取組を進めてまいります。

次に、29 ページの DMO 組織及び 33 ページの『西いぶり定住自立圏等連携事業及び「生涯活躍のまち」構想の実現に向けた調査検討』については、国の交付金を活用して進めている事業であることから、資料 3 の方で説明させていただきます。

最後に、34 ページの「再生可能エネルギーを活用した産業基盤強化」についてですが、数値目標として再生可能エネルギー利用施設数を 5 年で 1 施設以上としており、現状、0 施設となっております。

しかしながら、町内においては、平成 31 年度から太陽光発電施設及び家畜ふん尿を活用したバイオガスプラント施設が稼働予定であり、現状、2 施設が予定されております。

特に、バイオガスプラントについては、農業者だけではなく、一般町民の方々にも理解も深めながら進めていく必要があることから、今後はフォーラムを開催するなど、地域の合意形成を図りながら、進めてまいります。

以上で、資料 2 の説明を終わります。

続きまして、資料 3 の説明に移ります。

資料 3 は国の交付金を活用した事業展開ということで、A 3、4 枚にまとめております。また、補足資料として別途 A 3、1 枚を配布しております。

この国の交付金は、総合戦略を推進するために、国の方で設けた交付金であり、豊浦町においても、総合戦略実現のため、この交付金を活用しております。

この資料では、1 枚目で国の交付金の概要を、2 枚目以降で、国の交付金を活用して進めている取組について、整理しております。

それでは、まず、1枚目をご覧ください。

左から「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」、「地方創生加速化交付金」、「地方創生推進交付金」となっております。

左側の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」については、いわゆる地方創生先行型と言われている交付金であり、総合戦略策定事業のほか、先行して行う必要がある事業が採択されています。

真ん中の「地方創生加速化交付金」は、先行して行った取組をさらに加速化させる取組、もしくは、先駆性の高い取組が採択されています。

右側の「地方創生推進交付金」は加速化させた取組を深化させる取組が採択されております。

なお、この交付金は当町では、3年計画として採択されていることから、「予算総額」欄には、平成28～30年度の予算額が記載されております。

なお、色つきの事業は、それぞれ連動している事業となっております。

また、前回会議では、左側、平成27年度部分の取組についてはすでに説明しておりますので、今回、説明は省略させていただきます。

今回は、平成28年度の検証という意味合いもありますので、真ん中と右側の「地方創生加速化交付金」及び「地方創生推進交付金」の取組について説明します。

緑色の事業については「農業関係の事業」であり2ページ目で、ピンク色の事業については「観光関係の事業」であり3ページ目で、色つきでない事業については「他市町と連携している事業」であり4ページ目に整理しております。

それでは、2ページ目をご覧ください。

農業関係の事業となります。

この事業については、具体的な中身の説明の前に、全体像をお示ししなければ理解しにくいと思いますので、全体像を示している「補足資料」をご覧ください。

この事業はどのような事業なのかというと、上に「事業目的」とあります。

記載のとおりですが、農業の担い手不足に対応するための新規就農者研修や稼げる農業に対応するための農産物の集荷、加工、販売といった6次産業化の実現を目指すものです。

この目的達成のための検討を行う場として、下部分にあります「地域産業連携協議会」を平成27年度に立ち上げており、真ん中に平成27年度からの取組が記載されていますが、ここに掲げられた取組を行っていくこととしております。

そして、最終的には、新規就農者研修機能や6次産業化機能等が備わっている地域産業連携拠点を整備し、平成31年度から自立して拠点運営していくことを目指しております。

さて、資料3の2ページは、この補足資料の平成28及び29年度部分の取組について、国の交付金を活用して実施した内容、これから実施する内容を整理したものとなります。

資料3に戻ります。

まず、左側の上部分についてですが「地方創生加速化交付金」を活用した取組内容を記載しております。

取組内容に詳細に記載されていますが、地域産業連携拠点の整備に向け、新規就農者の支援体制や拠点施設の内容について地域産業連携協議会で検討を行いました。

また、6次産業化による稼げる農業の実現のため、豊浦いちごなどの豊浦農産物の高付加価値化を目指した取組を行いました。

次に、左側下部分についてですが、「地方創生推進交付金」の平成28年度部分の取組内容を記載しております。

取組内容としては、整備する地域産業連携拠点の基本設計を実施するとともに、拠点での再生可能エネルギーの活用検討を行いました。

次に、右側部分についてですが、「地方創生推進交付金」の平成29年度部分、すなわち、今年度に予定している取組について、記載しております。

取組予定内容としては、基本設計を行った地域産業連携拠点について、実施設計段階へ移行します。

また、6次産業化による稼げる農業の実現については、具体的な加工品の試作品製造を行うとともに、パッケージデザインの検討も行っています。

加えて、東京のフレンチレストランと連携し新たなメニュー開発の実施も行います。

さらに、これらの取組については、動画配信によるプロモーションも行い、豊浦町の取組をPRしていきます。

その他、記載している内容について、取組を実施していくことを予定しております。

数値目標についてですが、赤字で囲まれている箇所について、それぞれ掲げられております。

左側については、平成28年度の取組であることから、すでに結果が出ており、1つ目の「新規就農相談中の案件、年30人」という目標に対し、結果は31人で達成できております。

また、農業出荷額（いちご、ベリー類、加工品含む）6千2百万円となっております。

この数値目標については、左上の「地方創生加速化交付金」、左下及び右側の「地方創生推進交付金」ともに共通で設定しているものとなり、結果は約6千5百万円となっており、こちらも達成できております。

次に、3ページ目に移ります。

観光関連の事業となります。

こちらの事業は、洞爺湖有珠山ジオパーク資源を活用し、ジオパークを形成している各市町がそれぞれの取組を実施しました。

豊浦町は、DMO組織の設立を目指し、取組を行っています。

さて、DMOとは何か、となると思いますが、地域観光のマネジメントを一体的に担う組織です。まだ、わかりにくいと思いますが、日本では、観光振興は行政や観光協会がメインで、旅行企画は旅行会社が行うのが通常かと思いますが、それらを一体的に担う組織のことで、欧米やアジアでは一般的なものです。

すなわち、豊浦町の観光全般を担う組織を目指す取組となります。

まず、取組としては、「豊浦町観光地域づくり機能検討協議会」を設置し、豊浦型DMOのあり方について、検討を行っています。

そして、実際にDMOの運営を行っていくためには、収入が必要であり、収入を得るには、商品が必要であり、商品売るには商品を取り扱える人材が必要であり、といったように、すべてを担うための準備が必要となります。

取組内容に記載されている中で、主なものとしては、商品となる観光プログラムづくりがあります。

これは、豊浦町にある様々な資源を活用し、観光客の方に体験していただくプログラムづくりとなります。

秘境駅小幌ツアーや、真冬に手ぶらでキャンプなどこれまでに15プログラムを作成しております。

また、人材育成も必要であることから、こちらについてもセミナーや研修、先進地視察などを実施しました。

その他の取組内容については、資料をご覧くださいと思います。

今後については、これまでに作成したプログラムの商品化やブラッシュアップ、人材育成についても更なるスキルアップが必要であることから、DMO組織の検討と並行して、引き続き、取り組んでいくこととしております。

なお、数値目標についてですが、赤枠で囲まれている箇所について、平成26年度観光客入込客数(37.2万人)から3千人の増」となっておりますが、平成28年度の観光客入込客数が42万人となっていることから、4万8千人の増となっており、目標を達成できております。

最後に4ページ目をご覧ください。

こちらは広域連携事業となります。

先ほどのDMOについても、国の交付金としては広域連携事業となりますが、連携の仕方がこの4ページ目に掲載されている事業とは異なることから、あえて、分けて記載しております。

4ページ目に記載されている2つの事業は、どちらも室蘭市を中心に登別市、伊達市、壮瞥町、洞爺湖町、豊浦町で連携している事業となります。

まず、上の部分の『西いぶり「生涯活躍のまち」構想推進事業』についてですが、そもそも「生涯活躍のまち」についてはなにかということですが、国が示している考え方によると「東京圏をはじめとする地域の高齢者が、希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり」を目指すものとされております。

『西いぶり「生涯活躍のまち」構想』においても、まずは50代以上の元気な中高年齢層、アクティブシニアを中心的なターゲットとして考えております。

さて、平成28年度取組内容としては、『西いぶり「生涯活躍のまち」構想推進協議会』に参画し、『西いぶり「生涯活躍のまち」構想』を策定するとともに、構想実現に向けた取組の方向性を決めました。

今後については、定めた方向性に関する各種取組を、各市町と連携しながら取組み、構想の実現に向け進めていくこととしております。

目標については、赤枠で囲まれた部分に「西いぶり「生涯活躍のまち」構想の策定」とあり、結果としては、策定できている状況であります。

最後に、下の部分の「西いぶりクラウドファンディング販路拡大事業」についても、「西いぶりクラウドファンディング推進運営協議会」に参画し、クラウドファンディングを活用し、ファンド組成を希望する事業者の初期費用軽減を行い、クラウドファンディングの活用促進を

図ったところであります。

数値目標については、赤枠で囲まれた部分に「6市町全体のファンド組成件数6件」としており、結果、2件のみであったことから、目標を達成できなかった状況であります。

ただし、今後も、協議会には継続して参画することから、1件でも多くのファンド組成が実現するよう、各市町と連携を図っていくこととしております。

説明が長くなってしまい大変申し訳ありませんが、以上で説明を終わります。

【谷本座長】

ありがとうございました。

今、説明をお聞きしながらですね、資料1の裏面ですね、27の取組のうちの13の取組が青く塗られた部分であり、ある程度達成できていると。白い部分が達成していない取組であると。基本目標が1から4までありますが、1時間くらい議論する時間がありますので、この中からですね、ちょっと今、私がメモしたところですよ、農林水産、ベリータウンですとか水産資源の安定化、起業促進、食の商品開発、特産品、こういった農林水産の生業に関わる部分を最初に議論していくと。そして、移住や定住、空き家バンクなどを含めた移住促進に絡んだような問題を2番目に議論していきます。学力向上や子育ての問題を議論し、そして先ほどDMOの話もありましたけれども観光や、商業、買い物の環境、購買機会など観光に関わるような問題、着地型観光や広域連携もありましたが、そういったような問題、そして、再生可能エネルギーですとか太陽光、あるいはバイオガスプラント、大きな柱はその4つ、あるいは防災もあったし生涯活躍のまちもあるのでありますが、柱をその4つに絞ってですね、時間との兼ね合いもあるのですが、整理しながら議論していきたいと思えます。

それではまず農林水産の問題として、目標を達成しているもの、していないものいろいろあると思うのですが、生業に関わる部分で議論していきたいと思えます。そのへんの問題としては、(施策番号の)1番、5番、6番、7番とご説明がありましたけれども、あと21番なんかもそうかもしれませんけれども、そのへんのところで目標を立てて、今、進んでいるもの、いないものがあるわけですが、何かご意見、特に農林水産に関わっている平池委員、いかがでしょうか、お聞きしていて、気づいた点など。

【平池委員】

今、新規就農者が大岸地区には増えてきている状態で、私の隣の家も空き家バンクだったのでありますが、今日、片付けていたみたいなので、近いうちに住むのではないかなと思っているのですが、やはり実習に1年くらいやって、来年度からハウスを建てるみたいなのでありますが、そういった人が結構増えてきていますよね、大岸あたりは。ほかにもちょっと離れているところもハウスを建て始めているという状況も出てきておりますから、そういうのは大変良いのではないかなと思っております。

そして、お子さんがいらっしゃる方もいるので、だんだん人口も増えていくのではないかなという期待はあります。

【谷本座長】

大西委員、どうですか。

【大西委員】

実際に私が1次産業に関わる仕事ではないので、ピンとこない部分はあります。

ですので、数値を見て、このくらい達成できているのだなということくらいしか見られずに話を聞いておりました。

目標については、5年のうち達成すべき目標ということで、今、2年目が終わり3年目に入ったところだと思うのですが、進捗状況として3割を切っているような取組については、もう少し深く実施していかないと達成は難しいのかなと思っております。

最終年度くらいになってくると、数値も伸びにくくなっていく取組もあると思ひまして、最初の2～3年くらいまでは伸びていても、そのあと伸びが落ちてくる部分について、どのようにやっていくのかなと思っております。

【谷本座長】

ありがとうございました。

大西委員は、後ほどの商業、観光のところで、またご発言、お願いします。

山田委員、いかがでしょうか。

【山田委員】

農業に関わる場所しかちょっとわからないですけれども、新規就農者の相談件数が非常に増えていまして、各ネットワーク、協議会等に参加させていただいているのですけれども、実際問題として、新規就農者はイチゴですとか少ない面積で投資も少なくできるものを始める方が多く、実際、私が行っている畑作に就農したいという方が少ない状況でして、新規就農者と触れ合う機会、相談する機会というのは少ないです。どちらかという、大岸、礼文の方が中心となっており、任せてしまっている状況でして、もうちょっといろいろな意味で関わってほしいのかと思っております。やはり、研修が終わって就農してからも続けていってほしいので、いろいろな形でこれからも協力していかなければならないと思っております。

【谷本座長】

ありがとうございます。

31件の相談実績はあるのですが、それが就農に結び付いていないという状況ですかね。

【山田委員】

相談にきてやめてしまう方もいらっしゃいますし、実際に研修に入って2年間時間があるので、就農するもうちょっと時間がかかることを踏まえると、これからもう少し増えてくるものと思います。

【谷本座長】

ほかに何かございますでしょうか。

他の委員も含めまして、この問題について何かお気づきの点がございましたら、いかがでしょうか。

奇本委員、どうでしょうか。

【奇本委員】

苦言を言いますけれども、農業については大岸では、農業をやっている方と話す機会を設けております。若い人が離農している面もありますし、会社会的なものをやろうかという話もしております。究極の話をする、食べていけるかという話なのですね。やはり、収入が入らないと農業だけではできないと。私は建設業だから、今、雇用でミスマッチが生じていますよね。豊浦も足りない状況があるので、働き方も農業をやりながらそういう仕事もだとか、そういう話もある。結局、食べていけるかということ、実際問題そういう話について、今度、腹を割って話をしようということになっている。草刈りだとか町の仕事もあつたりだとかするが、そういう仕事があることを農家の方はわからない面もあるので、やはりお金の話が出てくるので、そのへんも、ベリータウンの話もあるので、今、説明していただいた話については、ほとんどわかっていない。わかっていないので、もう少し説明してあげてもいいのかなと、私も聞かれてもわからない部分があるので、今の廃校の部分は、大岸地区で、頭ではわかるのだけど、何をしていくのかがわからないという状態で、イメージできないというのもあると思うので、もうちょっと説明していただくとありがたいし、それでまた考える面もあるのではないかなと思っております。これは地元の方で、そういう話もありましたということで、話させていただきました。

【伊東委員】

今、長いご説明を受けてですね、やはりそういった説明の仕方しかできないという、これは、どこの町でもそうですけどね。行政的な話をする、行政の専門家という人は非常に多くてね、農業の6次化という、行政の方はみんな知っているのですけれどもね。一般的にそれをかみ砕いてなんということなのですからね、例えば、農業の6次化の言い方としてね、生産する農業だとか、食べさせる農業だとか、見せる農業だとか、そういう生活実感みたいなところからきて、それが大岸という地区はこの要素が非常に強い地区だとかというように我々の日常生活に翻訳してあげないと難しい。こういった資料で例えば町内会で集まって話し合うかという非常に極めて難しい。行政的には雑談に見えるかもしれないが、雑談の中からヒントを頂戴する以外には、現実的に、会議と言ってしまうからなかなかお互いに難しい。難しい問題を難しく考えなければならないというか、それが現実なのですからね。私はまちおこしやアドバイザーとして三十数年間、80くらいの市町村と付き合いきても、具体的に説明しろと言ったら、ものすごく難しいというか、豊浦で暮らすということとは何か、豊浦でイチゴ作るということはどういうことなのかとか、交通量が減ってきてどうだとか、やっぱりそのあたりの本当に雑談的な話からみんな興味を持って聞かなければならないというね、座長はそ

れがご専門だから、お互いにそれは非常に難しいですよ。例えば、今、農林水産を豊浦町域でどのように活性化するか、また、それに携わっている方の職業を確立させるために、いろいろなところからの支援をどうするかということではなくて、ここにもあるけれども、育てる漁業からもっと新しく育てる漁業へということではなくて、取る漁業と育てる漁業だけではなくて、本州の海岸線では食べさせる漁業ですとか、泊まらせる漁業ですとか、釣らせる漁業ですとか、漁師を格好良く見せて呼び込み運動に結び付ける、要するに男売り込み漁業だとか、そういうことをやっているわけです。漁協が。例えば静岡県の伊豆あたりや、千葉県のイチゴ生産地に行くとかね。農業の問題としてイチゴを考えているわけではないのです。千葉県何とか町としてたまたまイチゴがあったら、それを食べさせる、取らせる、泊まらせる、呼び込み運動に結び付けるというふうに雑談していくと言いますか、なかなか難しいことになるかもしれませんが、今、農業・漁業の現場の悩みは何なのか、私たち地域社会はどうやってヘルプするかと言われると、わからない。それはその業界の自己努力というかそれがあって、私たちは褒めるだとか伝えるということはできるのです。でも、ホタテの問題なんかも、どうしてこんなに不漁なのですかと聞かれるとわからない。

山田委員は、実際に農業やっていて、昨年、一昨年くらいから際立って違う現象が仲間の中で出てきたとか、例えば、急に何かの作付けが増えてきたとか、誰かのところに人がたくさん訪ねてくるだとかね、現場の現象を聞きたいなと思います。

どんな特徴がありますか、農業で感じることとして。

【山田委員】

実際にここ1～2年ではなく、5年も6年くらい前からですけども、普通という年がない、気候的なものなのですけども、異常気象というのが常に普通。とにかく雨が降らないという1ヵ月くらい浸み込むような雨が降らない。

【伊東委員】

豊浦地区の農業に関しては、非常に状況が良くないのですか。

【谷本座長】

それは豊浦だけの現象ではなく、全道的な話ですね。

【山田委員】

そうですね。非常に作業面でやりにくいですね。この時期にこの作業というのが決まっておりますので、それをこなすために、また大型機械を入れてみたり、効率の良い作業機械を導入してみたりしております。また、私たちの畑作だけではなくて、隣の地区の畜産でも、会社組織にして、良い時にいっぺんに草を刈ってしまうという動きがあります。

【伊東委員】

それは大型機械を入れて法人化してということですか。

【山田委員】

畜産の方はそうですね。

人を呼び込みたいと言いつつも、人のいない農業に進んでいっている感じですね。実際に、私のところも親が歳を取ってきたので、私ができるようにと装備を揃えております。

【伊東委員】

十勝の方に行くとき無人トラクターの実験をやっていますよね。

【奇本委員】

田植えはGPSでやっておりますよね。

【谷本座長】

どんどん大型化、大規模化、機械化、装置化という感じですかね。

【伊東委員】

農業に憧れている若者たちが訪ねてくるようなことはありますか。

【山田委員】

ないですね。

【伊東委員】

ないですか。

農業をやっている仲間たちは、希望に燃えていますか。

集まった時の雰囲気は明るいのか、暗いのか。

【山田委員】

僕が帰ってきたころから比べると、はるかに暗くなった感じですよ。

【伊東委員】

厳しいですか。

【山田委員】

人が少ないのもあるのでしょうかけれども、地元での話題も少ないですね。

なにかにかこつけて、昔はよく飲んでいましたが、最近は集まりが終わると皆さん帰りますね。

【伊東委員】

それはちょっと厳しいね。

【奇本委員】

これは全体の話です。農業だけの話ではなくて、豊浦全体の感じがそういうふうな感じです。

【伊東委員】

それはオール北海道として同じことですね。

【谷本座長】

農業だけではなくて、我々の職場もだんだんそういう感じになってきていますし、全体的にそうなのでしょう。

ちょっと話題を変えましょう。

先ほどのホタテオーナー制度、本日は漁協の吉川委員が来ておりませんが、これまで蛸箱はありましたけれども、今度はホタテオーナーという動きがありますね。

作って売るだけではなく、いろいろな楽しみや期待を込めるような、当たったり外れたり、そういうホタテオーナーみたいなものを、どんどん農業などいろいろなところに、ちょっとした遊び心があるような感じで、観光も含めてそのようなものの中にまた新たな動きがあるのではないかなと思います。

ホタテオーナーというのは、どういった感じで見えていますか。

【平池委員】

私は初めて聞きました。

そこまで浸透していないのではないですか。

【谷本座長】

町長どうですか。

【村井町長】

これはですね、私は10年くらい前からやりたかった事業なのです。やはり、オーナーになった方に夢を持たせる、そういうのがほしいなということ、それと、漁業者についても、トンなんぼですよ。ホタテね。安いときは100円そこそこで、トンなんぼで売っていたものです。そうではなくて、1枚なんぼで売ることができないかという発想なのです。そのためには、コッコ取りの時からオーナーの親子さんに来てもらって、こういうふうになっているのだとか、そして、耳吊りやってぶら下げる。それも来ることができる人には来てもらう。あなたのホタテを今、吊るしたよ。自分で吊るしたのだと。体験も含めてですね。それから2か月、3か月になったときに見に来てもらう。そのときに、また船で行って、自分のホタテがどんなふうになっているのか、見てもらう。ストーリーですよ。今度は出荷のときに、今年一杯取りました。150枚も取れました。1回で送りますか、2回、3回に分けて送りますかと。今年是不漁だったから、50～60枚くらいしか取れませんでしたよ。それでもお客さんは満足するのです。そういう物語、そんなことをまたいろいろな方向でできないのかなと考えております。

そして、それが一つの付加価値を高めることだとも思っております。ですから、人参畑でも、例えば、まっすぐなものもあれば、曲がったものもある。曲がっているものは、瓶詰にしてピクルスで付加価値を高めて発送するだとか、無駄にならないもので、そして、夢が持てることが重要です。

【谷本座長】

片桐委員、いかがでしょうか。

【片桐委員】

ホタテのオーナー制度を当初聞いたときに、いいなと思いました。いいな、どうしようかなと思っているうちに、即日、埋まってしまいました。

【伊東委員】

物語があるからですよ。敏感に感じるものがあるわけですよ、たくさんの方が。イメージして物語を自分で作れるわけですよ、オーナー制度というのは。

【村井町長】

生産者もオーナーになった人もどちらも良いわけですよ。

【片桐委員】

町長がおっしゃったように、最低保証は確か100枚ですよ。3万円で1本買って、最低100枚保証しますよ。100枚がいつ頃に来てもうちは困っちゃうなど。どこに配ろうかなと考えていたら、オーナー枠が埋まってしまったわけです。

先ほど、農業でも同じようなことができないかという話がありましたが、7～8年前に伊達で物産館でウェブショップを立ち上げる際に、農家の方も入っている議論しておりました、その時に同じような話が出たことがありました。例えば、とうきびでもいいし、人参でもなんでもいいです。オーナーになってくださった方の、例えば、とうきびはこのような感じですよというのを、今の時代、インターネットで発信できれば、良いのではないかと。その時、農家の方って忙しくて、そんなことやっている時間がないよ。それもそうかな。では、代わって誰がやるのか、役所か、物産公社かという議論をしていたのですが、結局、できなくなってしまったのですけれども、そういうのがあると、途中も関心を持っていただけるので、何かできないかなと思います。

【村井町長】

今、片桐委員が言ったように、ホタテオーナー制度も協力していただける漁師の方が少ないです。

たまたま、興味のある方がいらっしまったので、できたことですが、普通の方はめんどくさいのだと思います。

【谷本座長】

でも、そういう遊びと言いますか、そういった面が結構後々大事であって、夢が膨らんでリピーターなどいろいろな意味で町を訪ねてくる方も増えていくなど可能性があると思います。

【村井町長】

もっともっと付加価値出ると思います、ホタテの場合。例えば、今、ロープとロープの間は15センチ、20センチですが、オーナーさんは違うのだと。倍の間隔で栄養たっぷりのホタテを育てているのだと。だからオーナーさんのホタテはほかのホタテと違って肉厚だし、甘みもあるし、栄養もたっぷりののだよと宣伝できるわけです。そして、また、付加価値が上がる。だから普通に食べているホタテと私が食べているホタテは違うのだと。違いがあったら競争にならないのですよ。価値が上ですから。

【伊東委員】

1つ現場で体験してもらおうと、そこに来ることそのもの、いることそのものが遊びの要素で、何かイベントを実施して、そうしたら大雪が降って困ってしまったなど。そうしたら、屋根雪下ろしをやってもらったら、それが一番うれしくて、屋根の雪下ろし、次はいつやるのですかと電話たくさん来ると言います。なんなのだというね。我々がハワイに行って、そういった現象に出会った時に、例えば、「すまないけど、うちのパイナップル畑を1時間手伝ってくれと、無料だけど」と言われたら、我々にとっては、ハワイのパイナップル畑で1時間働いたとなったら、えらい体験ではないですか。楽しいわけですよ。私は、沖縄に行ったときに、さとうきび畑で1時間働きましたけれども、とても楽しかったですよ。お金出しても良かったと思いました。要するに我々は環境を売るといふか、豊浦環境、観光ではなくて、まず、豊浦という自然の環境を見て、そこで住んでいる人々の人間という環境を見て、人間が働いている社会という環境を見て、その社会が作り出した文化という環境を見るわけです。観光客ではなくて、環境客というかな、それがいつも私の持論なのですけれども、環境客誘致と言いますかね、誘致でなくて交流ですね。誘致と言うとまた、来てくださいと呼びかけなければならないですが、交流というのは、何か話題を作って、5人で始めたまちおこしが500人になったというような成功例みたいなのがいくつかありますが、最初なんていうのは、3人とか5人とかですからね。だから、そのあたりはここで予測して、ここで会議をやって、特に、一番大元の現場をわかっていないという国というものがあって、そこから補助・助成で方向性がまずは大きく決められたから地方で考えると。それは違うのですよね。逆なのですよね。我々の現場の山田花子という明治43年生まれのお婆ちゃん、ずっと豊浦だから、言葉も訛りも親戚も全部豊浦だから。婆ちゃん先生からお聞きするとか、婆ちゃん先生と若者が一緒に住んでもらうとか、ソフトの方から、政策とか施策というのは、ハードの方からのものをソフトで埋めようと会議を実施するのだけれども、とても難しいのですよ。最初から現場はソフトなのですよ。

【谷本座長】

そうなのでしょうね。ただ、やっぱり国からお金をもらうという話になると、そういうわけ

にもいかない部分のありますよね。

【伊東委員】

そうですね。ですから、資料にもあるように何とか事業という感じで事業と言わないとお金が付かないわけですよ。事業を作ろうと思っているわけですよ。そうではないのですよ。事業というような形にまとめなくてもいいわけですよ。ただ、私のような言い方をしてしまうと、先に進まない部分もあるわけですから、ですから、ホタテのオーナー制度というのがなぜ満杯になったかという、それはオーナー制度を呼びかけた我々ではなくて、それに応じた皆さんが、オーナーになったらこんなことをやりたいとか、こうなるのかなとか、そういうオーナー一人一人の想像力が応募人数を追い越したわけですよ。だから我々は豊浦だからホタテのオーナー制度というのは土俵に上がれるわけですよ。噴火湾、内浦湾のホタテというイメージが多くの人に常識としてあるから、さらに立ち上がれるわけですね。

【谷本座長】

時間も関係するものですから、農林水産でほかにベリータウン、資源関係、商品化など、何かこのところでございますでしょうか。

次にいきましょう。移住促進や空き家バンク、何かありますでしょうか。

【小西委員】

そうですね、私は豊浦町でも一番大きな自治会のところに住んでいるのですが、最近は、持ち家の助成制度を活用し建設ラッシュですね。それと若干公営住宅等も空いているところもあります。そういうところに率先して入ってもらうことも大事かなと思います。

【谷本座長】

この部分は、現状値部分が青くなっていませんが、進捗は予定通りに進んでいるというふう
に捉えており、私もそのように聞いていました。

【小西委員】

今、町が中心となって民間のアパート建設の助成をしております、ずいぶん人気があると聞いております。

【谷本座長】

山本委員、何かありますか。

【山本委員】

ちょっと驚いていたのは、移住・定住の数値を見ていると、非常に進捗状況は良いのかなと思
いました。私はこちらに来る前に赤平におりまして、赤平も皆さんご存知だと思いますが、炭
鉱があった街で、ピークで6万人ほど人口がいたのですけれども、現在は1万人ちょっとで

あり、やはり一生懸命、移住・定住促進を実施していましたが、なかなか数値が上がってきていない現状でして、それから見ると、非常に健闘されているのではないかなと思っております。

【谷本座長】

やはり地の利がいいということですかね。

【山本委員】

そうですね。

【谷本座長】

横に伊達市もあるし、噴火湾で暖かい。

【伊東委員】

オール北海道で、あるいは全日本で移住促進をやっているわけですから、その中で北海道人気というものもいくらあっても、その中でも豊浦は非常に地の利が良い。素晴らしいところなのです。要するにオール北海道的な感覚で考えても、もちろん、北海道的特性の上に内浦湾という海に面している部分と、そして北海道の中で南側に面している部分だとか、交通機関の問題だとかも含めてね、良いところにあります。新幹線以後の社会から見ると、新幹線は直接ではないけれども、間接的に間近にいるという部分があるので、やはり、豊浦というところはね、地形的に市街地と大岸で違うところはありますけれどもね、オール北海道という視点で移住を考えると、位置が恵まれている場所だと私は思います。

【谷本座長】

工藤委員、子育てではないのですけれども、いかがでしょうか。

【工藤委員】

私は大岸地区に住んでいまして、やはり子育てしやすい環境ではあります。しかしながら、大岸地区は子どもの人数も少ない。また、駅前方面に空き家があるのですけれども、老朽化が進んでおり、ちょっと人が住めるような状況ではない感じのものが、私の家の周りに何軒か見られます。

【谷本座長】

どうしたらいいでしょうか。やっぱりちゃんと修繕して、リフォームすることが大事でしょうか。

【伊東委員】

まずは、大岸という地区を知ってもらわなければならないですね。

【工藤委員】

そうですね。介護施設とかはあるのですがね。

住みやすい環境ではあると思うのですが、やはり子どものいる家族がもうちょっと市街地から来てほしいなという感じではあります。

ただ、逆に大岸地区から市街地の方に行きたいと考えている方もいないわけではないようですので、公営住宅も大岸地区は埋まっているところもあるので、空き家の活用なども含めて、なんとかならないものかと考えております。

【奇本委員】

空き家はどのような取組をしているのですか。

【藤原地方創生推進室長】

目視による空き家の調査を行っております。その中で、住むことが可能と思われる空き家の所有者にアンケートを出し、空き家をどうするのか、意向を確認しております。

【奇本委員】

民間的なものは考えていないのでしょうか。

【藤原地方創生推進室長】

民間の活用もあると思っておりますが、まずは、所有者の方の意向確認を行っているところです。

【奇本委員】

地域のことは地域でわかるし、そういう使い方があっていいのではないかと思います。あの家は誰々さんの家だよとか、そういう繋がりを見つけるのは自治会でもできますし、結構そういう話を聞くものですから、誰々さんは苦小牧にいますよとか、そういう話まで広がるじゃないですか。そういうツテですぐに見つかるかあると思います。大岸にも結構そういった繋がりがあるのですよね。礼文にもあるだろうし、大和にもあるだろうし、地区ごとでわからない部分もありますが、そういう繋がりを活用することも大事だと思います。

【谷本座長】

空き家は把握しているのですね。

【藤原地方創生推進室長】

しております。そして、本人の意向を確認しておりますが、ただ、やはり問題もありまして、例えば、相続がされていないですとか、兄弟がたくさんいて兄弟との話が見つからないですとか、そういった問題があります。

【谷本座長】

それ以上介入するわけにもいきませんよね。

本人が貸したいですとか、処分したいですとか、そういった形になってくればということですね。

【藤原地方創生推進室長】

そうですね。そうすると町の方でも動けるのですが。

【谷本座長】

個人の財産にあまり関わりすぎてもトラブルになってしまいますね。

【藤原地方創生推進室長】

そこがなかなか難しいところでもあります。

【奇本委員】

そこに、知り合いの人とかがいれば、活用してもいいのではないかと思います。

【藤原地方創生推進室長】

隣近所に聞いたりしている物件もあります。

【奇本委員】

そういうふうにしたらいいのではないかと思います。

【谷本座長】

これは実績もある程度ありますし見込めると。いろいろな意味で、さらに進めていくことが重要と考えます。

次に観光や商業、地元の商品を買ってもらおうとかですね、そのへんについて、いかがでしょうか。

【伊東委員】

今、商工会青年部は何人ですか。

【大西委員】

14人です。

【伊東委員】

14人ですか。そんなに小さくはないですよね。

【大西委員】

そうですね。ただ、全国的な話ですが、継承者が少なく、3～4年前に全青連の方で、定年を45歳に上げたのですよ。ですので、今、一時しのぎしている段階なのですよ。ただ、5年間延びたところで、継げる人が結局その子どもとかではないですか。でも、5年間延びても、まだ学生なりで就職できないのですよね。なので、今の段階で人数を減らしたくないのか、そういった感じでやっている現状ですね。

私たちの豊浦も20代くらいが4人くらいなので、半分切っている状況で、このままいくとたぶん青年部豊浦は危ない人数になってくるのかな、10年経過したらどうかなといったような感じですね。

【伊東委員】

何か皆さんで考えているようなイベントとかはないですか。

【大西委員】

少しずつですが、増やそうかと考えております。ただ、イベント屋さんではないので、ちょっと難しい部分もあります。事業としてやらなければならないので。今は、事業が少なくなっているんで、もう少し増やしていこうかと考えており、子どもたちを喜ばせることができる取組をとということで、縁日的なものを実施したりしております。

【谷本座長】

商業、観光のことでご意見などありませんか。

【片桐委員】

私は豊浦町のDMOの会議に参加しておりますので、まさに当事者でございます。協議会の中で話が出ていたのは、体験プログラムの方は15プログラムできたと。今年からはこれがお金を取るができるのかを検証しよう。昨年まではあくまで体験。ちょっと体験してもらって、良いところ悪いところを教えてくださいということです。今年はそれに500円出してもらえるのだろうか、1,000円出してもらえるのだろうかというのを今年やろうということになっております。

今までは、協議会という形で宝島旅行社がお客さんを、少人数のインバウンドのお客さんを連れてきて体験してもらったりとしていましたが、ここから先、長い目で見るときには、「自分の明日の飯のために何をするか」と考える人がいないとダメだろうという話になっております。結局、私たち、例えば、伊達信用金庫が喋る、役場が喋る、商工会が喋る、周辺で喋っているだけなので、「これをやらないと明日ご飯が食べられないのだよ」という人が考えないと実際の身にならないだろうという話になっております。そこらへんが鍵なのかなと考えております。昨年、良い話があったのは、台湾からの学生さんが小幌駅に行ったときに、小学校のころからここに来たかったのだという方がいまして、そういう求めても得られないものが豊浦にはあるわけですから、そういうのを有効に使っていきなというふうに思っております。今

のお客さんは実際に体験して、例えば、ホタテの貝殻を剥く、貝から外す、それだけでも新鮮で喜んでくれる、楽しんでくれる。ですから、よく言われることですがけれども、地元の間が一番地元を知らない、何十年も前から言われていますけど、やはりそうなのかなと思います。そういうのをやっていくことで、何が魅力なのかをわかっていくというのが、今なのではないかなと感じております。これを500円もらうためには、1,000円もらうためには、どうするか。昨年そのままでは500円は無理かな。これを足したら1,000円にできるかもしれない。そういうのをこれから考えていく。

昨年、大西さん、イベントをやりたくても、14人という人数もそうですけれども、14人が14人出てこられるとも限らないので、イベントもなかなか難しいという話をしておりましたよね。それもDMOなりなんなり、横の繋がりの中で、ここの部分は青年部で頼みますとか、そういう形でやれるのがいいのかなと思います。

昨年、ホタテの体験プログラムのときに、漁協の職員の方が最初、自分は英語ができないからと言っていた人が、実際に来てやっていると、ホタテ釣りやってみようよと、そして一番釣った人にはプレゼントあげると言い出し、引いていた人が前に出てくる感じになりました。こういう話をどんどんしていった方が良くと思います。先ほど、奇本委員も言っておりましたし、平池委員のオーナー制度の話を知らないと言っておりましたが、やっている方からすると発信しているのだろうけど、なかなか全町民まで行き渡っていない。これは全部行き渡るといふことは無理なのですから、でも、もうひと工夫というのもありかなと思います。

【谷本座長】

平池委員、今、お話しができましたけれども、いかがですか。

【平池委員】

私は農家に嫁いでいるのですけれども、昔はアルバイトで耳吊りとか結構行っているのですよ。今、オーナー制度で耳吊りまでして下げてもらって大きくしてもらって自分で食べるというのは、ちょっと魅力的かなと。いくら浜育ちといえども、そう感じますよ。

また、私、昔、余市のリンゴの木のオーナー制度がありまして、1年やりました。秋に行ってリンゴを収穫してくるというのをやったことがあるのですけれども、それと同じで、やはり浜育ちでもホタテのオーナー制度は魅力のある話ですね。50本だけではなく、もうちょっと増やしてもいいのではないかなと思いますね。

蛸壺、一時やめましたよね。あれもまた始まったという話がありますので、ある程度、夢を買うということも大事ではないかなと思います。

【伊東委員】

蛸壺は、ものすごく人気があって、応募も圧倒的に多いのだけれども、漁師の方がそれをフォローするのに、仕事の合間にやるわけですから、限界がある。観光協会としては、千人が一人、一人が十万人になったらと思っているかもしれませんが、漁師としてはたまったものではないという話ですね。ですから、商工業的には大当たりするようなイメージがあるけれど

も、現場の方々が限界なのだということですね。

【谷本座長】

漁師の方からすると、それがメインではないですからね。余力が取れるかという話ですよ。

【伊東委員】

ただ、釣り船というものはですね、8人から5,000円ずつ取るとします。そうすると、その船が本当に漁業に行くと大漁になるよりも釣り船にした方が金儲けになるのですよね。そこを超えてしまうと水産商業ということになるのだけれども、そこが問題なのです。

ただ、ホタテオーナーもやり始めた以上、知名度も上げるという効果もあるでしょうから、やはりそれは素晴らしいと思います。

【谷本座長】

観光のところでは、今、いくつか上がりましたが、何かございますでしょうか。着地型観光、あるいは、他市町との広域連携、いかがでしょうか。

小西委員、どうぞ。

【小西委員】

たまたま、漁師で定置をやっている方に呼ばれて、ちょっと聞きたいのだけれども、教えてほしいと言われたことがあります。何かというと、鮭とかホタテとかを宅急便で送るのですけれども、そこに町の良いところなどをいろいろ書いて送っているとのこと。そうしたら、小幌秘境駅ということで、詳しい資料を送ってほしいと依頼がありまして、送りました。

そうしたら1回1回きちんと小幌のことを宅急便で一緒に送ってあげていて、届いた方が隣近所の方にも見せているようで、そうしたら隣近所の方も送ってもらおうという話になっているようです。とても良いことをやっているなと思っているところです。

それと、この間、教育委員会の関係で、ある程度、年配のご夫婦の方に「うちの家内は何十年経っても、ホタテの剥き方がわからない。ぐちゃぐちゃになってしまう」ということで、良い方法はないかと聞かれました。私は剥くときのナイフにどういうものを使用しているか聞きましたら、古い包丁でやっているのだということでした。それであれば、安い包丁でも新しいものを買ってやってみたら、簡単にできますよとアドバイスしたのですけれども、豊浦町でいろいろなことをやっているのですが、今回、聞かれた方は伊達市の方なのですが、もうちょっとPRが必要なかなと思ったところです。

【谷本座長】

ありがとうございました。何かほかにありますか。観光のところもある程度実績値としては目標値を達成しているのもありますので、このままさらに2年半ですか、進めていただくと考えております。

また、再生可能エネルギーのところは、まだ実績はないのですが、ある程度、後半部でいけ

そうだということで、時間の関係もありますので、子育て、学力のところにいきたいと思います。

実績としても、ある程度、子育て支援のところとか、一貫教育、学力向上推進のところは青になっているのですが、工藤委員、なにかありますでしょうか。

【工藤委員】

大岸小学校ですけれども、来年、平成30年度に先生が3名減るという話を聞いておりまして、少し不安を感じております。

支援学級の先生と養護教諭、そして事務の方と聞いております。

【平池委員】

生徒数が少なくなると、養護教諭と事務職員がいらなくなるという規定があると思います。昔もそういう話が確かありました。ですので、その関係ではないかと思います。子どもが少なくなるということではないでしょうか。

【工藤委員】

子どもが少なくなると聞いております。

【谷本座長】

そういう話を聞くと不安になりますよね。

【工藤委員】

大岸小学校に入る子も少ないということは分かっているのですけれども、そういう話を学校の方でしていたので、人数的にどうなのかなと思い、聞いてみました。

【村井町長】

確認します。

【谷本座長】

ほかのところから、子育ての時期に、むしろ豊浦に来ていただくという戦略を打っておりますから、伊達の方からも含めてですね、こちらの方に移り住んでいただくというのは引き続き推進していくわけですけれども、なにか、ご意見ありますか。山田委員、いかがですか。

【山田委員】

実はうちの娘は支援学級におりまして、昔では考えられないくらい手厚く支援していただいております。何週間に1回はスクールカウンセラーの先生が別に来ていただいて、普段、担任の先生には言えないことがそこで言えたりですとか、驚くくらい、支援を厚くいただいているなど感じております。

あとは、私たちのころから比べるともちろん人数は少ないのですが、担任の先生プラス支援の先生が個人的にわからないところを教えてくれたり、教育に関してはすごいなと思っております。

【谷本座長】

もう言うことはないという感じですかね。

これをどんどん、また、町外にもアピールして、そこからそういう面でも充実しているということとさらに誘致を図るということかと思います。

ほかにありますか。小西委員。

【小西委員】

参考までにですが、今、大岸や礼文に小学校があるのですけれども、礼文小学校は移住した方が子どもおりましたので、3学級ということで教頭先生が配置されているのですね。3学級以下であれば、教頭先生が配置されないのですね。

もしかしたら、大岸は、今後どうなるかわかりませんが、現在は3学級ですが、将来的に2学級になったら教頭先生や養護教諭が減ることになり、やはりそうなると大変な学校経営となりますので、そのへんも移住等で対応していくことが重要かと考えております。

【谷本座長】

奇本委員、いかがですか。

【奇本委員】

今、工藤さんの話でいうと、地域で見守りは今、話をしております。これを実際にやっていくとなると、どういうふうに接していったいいのかというところを考えております。若い方が、こちらとしては接したいのですが、なかなかコミュニケーションを、今の親御さんとどう取っていけばいいのか。運動会も一緒にやりたいねという話もあります。

ですから、これから話をしながら、世代間でも交流したいなと考えております。

【谷本座長】

でも、大事な話ですよ。どこかで接点があって、そこから繋がっていくということも重要と考えます。

まだ、いろいろあるのですが、時間も押してきておりますので、このあたりでそろそろ意見交換を終わりにしたいと思います。

最後の締めめでですね、オブザーバーからコメントをいただければと思います。

【清水胆振総合振興局地域創生部長】

発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。

いろいろお話を聞かせていただきまして、私が非常に良い言葉だなと思ったのは、ベリータ

ウンという言葉です。良いネーミングだなと思いました。このベリータウン構想をですね、大切に育てていけないかなと思いました。先ほどから人が少なくていろいろと大変な部分もあるということであれば、例えば、イチゴなどの農作業の中で大変な部分についてベリータウンサポーターみたいなものを都会から募ってですね、農作業をやってもらうですとか、あとは加工場で人手が足りないのであれば、ちょっと一定の期間呼んで来てやってもらうですとか、そういう取組でベリータウンのファンをたくさん作っていけないかなと思いました。

また、人口減少に対応していくためには、定住の取組も大事なのですけれども、人をたくさん呼び込むという取組から定住に少しでも定着させていくということも大事かなと思っておりまして、そういう意味でいくとこの地域は非常に可能性があり、来年6月にはですね、室蘭で、岩手県の宮古との間に新しいフェリー航路が開設されてどんどん人がやってくる素地ができるかなと、それとなんととっても2020年にはですね、白老に民族共生象徴空間、国立の博物館ができて、国の方で100万人来ると言っております。2020年に100万人来ると言われている人たちをどうやって西胆振地域に回遊させるかというのは、これから我々大事なかなと思っておりまして、そういう意味では、豊浦は一次産業が盛んですけれども、室蘭は二次、製造業がありますし、洞爺湖や登別は三次、観光です。そして、我々、胆振総合振興局で重点的な取組として、一次、二次、三次のバランスが取れた産業展開がされているこの地域で6次観光というのをやっていこうと考えておりまして、6次観光の推進ということで地元の方々と連携して地域資源の磨き上げですとか、発信に取り組んでいきたいと思っておりますので、我々もそういった観点から豊浦町の皆さんにいろいろな提案をさせていただくこともあると思いますし、逆に豊浦町の方でいろいろな取組をする中で支援が必要な部分があればぜひ相談させていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

本日はありがとうございました。

【谷本座長】

どうもありがとうございました。

いろいろな可能性があると思います。

それでは、時間の制約もありますので、最後に座長の方から、現在までの進捗状況を踏まえまして、引き続き、総合戦略の更なる推進を行っていただくということでよろしいでしょうか。

< 「はい」 の声あり >

【谷本座長】

はい、それでは、引き続き、更なる推進を図っていくことで良いという回答をいただいたと判断させていただきます。

それでは、議事は以上となりますので、進行を事務局にお返しします。

【藤原地方創生推進室長】

座長、ありがとうございました。

まだまだ議論があるかと思いますが、時間の制約もございますので、本日はこのあたりで締めさせていただきますと思います。

皆様からのご意見を踏まえつつ、総合戦略の推進を引き続き進めてまいりたいと考えております。

事務局の方から、今後のスケジュールについてお知らせします。

次回は、今年度の取組結果について、引き続き、ご報告したいと考えております。

少し時間は空きますが、総合戦略の変更がない限り、1年後、来年の5月頃に開催できると考えております。

詳しい日程調整については、また、時期が近づきましたら、事務局からご連絡させていただきますので、引き続き、よろしくお願いします。

それでは、これもちまして第2回豊浦町総合戦略推進会議を終了します。

どうもありがとうございました。